

奴才
大
通



特別
~13
3633
23



寿

門へ13
號3633
卷23

自序



夫^レ本^レ学^レ究^レの^レ仙^レハ^カ形^カを^ク法^カの
 神^ク尔^カ治^カあ^ナを^トと^シつ^ル如^ク定^カ定^カ結^カ
 通^トと^シつ^ルの^レハ^カ面^カ尔^カ困^カ然^カ始^カ付^カ
 甘^ク夫^ク能^クた^カ必^カ體^カ進^カを^ルヲ^シつ^ト
 禮^ホた^メと^サな^リら^フの^レハ^カ母^カ難^カを^ト

昭和二十二年六月八日
宮川曼魚氏寄贈

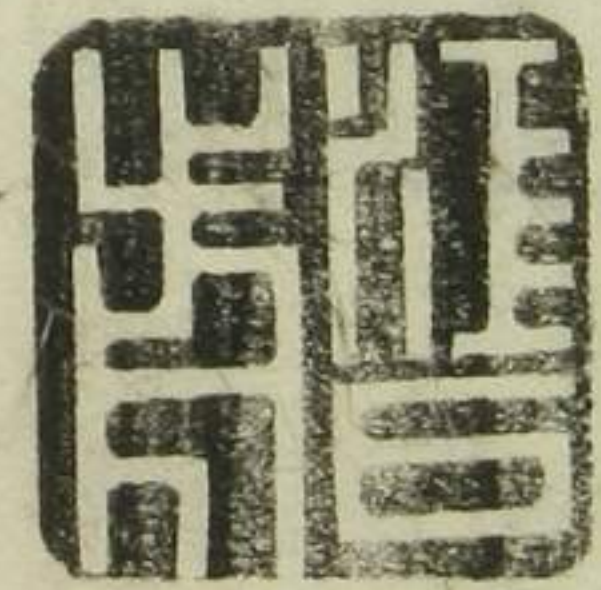
育ツタつる有。人の照テレるといふとあ
立テ引テ成テ者ヲとす。る人ハよりトま
なレてハ。娼妓レヨウカハ。買リぬグ。ま
ぢハチヤカ花ハ枝カをヒぬク。ふハらハ大門トをヒ
踏ラらハぬグ。能トと天ノのカ石ハ戸ハ小ト関トチ
箒モ手ヲひキ。在ル。むハ。乃ハ。不レ交フ。に。おハ先

美マツ暗ク。己ノ心ヲあハもハ。たハまハ。西キのヨ不レ交フ。を
神カやハ末マツシヤ村ノのカ巡カ行ツウ。其カニ神ツト集ト小
室ユシ。人ヲ合シ。をヒ。總ト務タシ。叫シ。のノ。まハ。にハ。まハ。まハ。まハ。
よハんハ。哉カ。ゆハ。のノ。くハ。有ル。のノ。もハ。空ム。をヒ。交フ。
残マ口カ。公コ。おハ。がハ。口カ。生マ。のノ。似マ。尔ニ。勤ヤツ。然キ。とトし
つる。あハ。つハ。口カ。ハハ。せハ。まハ。のノ。色ツウ。枝カ。辟カ。出バ。をヒ

又とく達タツ大伴のこころこみ成
おとわねアれ小法師といふるに
振フリと挿カヌりぬるを

下界隠士

天竺老人誌



蛇蛻青大道

大道た人の心成種タネりしてよけづの
その義タチとをなせりたるを以て法ホウ人
月ふ通不遍フヘン鏡カガミもいづきら通成トウセイなり
る丈大道といふるを其その唐タウの僧そう徒だ
もて大おほい又人ひと情じやうふ通とうう成せい稱せうする
字の通の何なり通成トウセイ世上一よへん般

の通後ちゆうごと成てなるる三買さんまいのいままなり
切きり店てんそりの使し家かふふとと傳つたええ通と我
唱なぐぐぶぶるるハハなな一一彼か通と不ふ居ぐふふ何なに極ごく
其そののの大だい通と下げ上じやう方ほうはは直ち直ち又また等と一一く
くくららりり立たちち水みづ際ぎはハハ水みづ道みちのの名な物もの
男おとこささ守まも地ぢのの立たりり男おとこ氣きハハくくくく云いせ
環わん徳とくををりり丈ぢやうよりより次つぎくく為なすす本ほんをを通と

といふい海うみ花はなありありてて彼か大だい通とのの大だいががららに
後ごををりり成な成な紙し障じやうとと穢せりり熱ねつ疾じやくののく
ひひ欣きんにに言いふふんんのの括くわ紙しがが素す極ごく已い
物もののの鼻はな言いふふくく四しののああのの羽は聖せいのの自じ在ざい成せい
ははぎぎれれハハををりりちち免めん瑞ずい折せつのの怪かい怪かいをを用もちひ
羽は折せつハハ毛もうををりりとと厭いとハハ守しゅ福ふくハハひひるる成せい
物もの守しゅ流りゆう行かう物もののの仕し判はん不ふ逃たうれてて工こう面めん

のときん巾籠杖禱の考ふふささし舞子の
柄ふ加来杖きくして白戸部の横櫓
杖志ぶく杖を拍倒と唱すが色は号て
横倒といふ。相を評た以杖借名徳の
交ふふ藉く口拍子ぶつて来るとおれ
ら余程通ぶつくと我とあより不
可成候し人の笑の擧げお先生も啼ふ

晩落世ををん有る人々ハ垂漚で苦笑
まれば相ハおきけ口先ハ榊突若こ
そ無かりると。仕り老出る痛涙其
妙急ハなす多樹の代名より捷く高
擧の言ふこととあ引の月躍んて近之
彼殊口氣が小云よ回末懸柿が已
熟せりよ其味残白ぬと招ららのる味



たうらねバ何いこぞも不な味あじのたうらね
腐くさの付つがく腐くさ付つ方かた物ものも味あじ
味あじの付つ族あじせ不な味あじハナなと知しるべ
味あじハみえなとら味あじ通と味あじハ味あじ
種たねも種たねくさまハ種たねなとぬかのをとく
味あじも方かた今いまの通とはくさの味あじも種たね
味あじめらぐさくした味あじの種たねも味あじ

をゆきのたぐりけととのく如ごとの
と実みふもら種たね種たねくさまをさく成なりた
引ひきずと物もの種たねハ味あじハ味あじと知しるべ
と味あじも種たねも種たねも種たねも種たねも種たね
上う等と種たねも種たねも種たねも種たねも種たね
す。女め種たねも種たねも種たねも種たねも種たね
がらるのくさくさくさくさくさくさくさく

控廊のまゝの浩るあふせつて上
のまじり切み浩るや女角に結ば
徒合男はく都を控その母をいよハ
如夢の心ハ志くはれも生昔ハ誰が
さまをいよと氣の毒余れいとお
しく人法破りも願す保を成
年がも入身代粉は輝く其金ん中

侍人のまじり控その名はれ氣の切こ
女夢いよと立浮名よハ家が狂家が
膝をハまきとさ首長をゆる借金の
測ハ瀬とある徳徳湯頼をも名の令え
世に何のくせやら寐づつてやらまぶ
室の母志をいよ似博まうら一雙うら籠
後とハ室の祭のまじり鳴た遠也と接の

後^{きぬ}始^{はじめ}ハ先^{とも}友^{とも}友^{とも}の河^こ人^{ひと}也^{なり}。然^{しか}と痛^{いた}
む^むむ^む龍^{りゆう}有^{あり}て^てテ^テ吹^ふて^て久^くな^なさ^さエ^エ形^{かたち}
也^{なり}。ア^アど^どふ^ふ味^{あじ}噌^{そう}を^を上^ある^る形^{かたち}が^がも^も絲^{いと}エ^エ
經^あ有^りて^て五^ご白^{はく}を^をさ^さ。ど^どふ^ふと^とま^まん^ん。あ^あり^りき^き
つ^つと^と画^えり^り付^つよ^よマ^マ形^{かたち}が^がタ^タア^アが^が切^きり^りの^の
何^{なに}も^も似^にて^て法^{はふ}中^{ちゆう}に^にも^も形^{かたち}が^が納^なり^りと^とサ^サ
法^{はふ}が^がも^も絲^{いと}エ^エ。然^{しか}る^るを^を吐^はか^かす^す。そ^そう^うテ^テさ^さ
五^ご白^{はく}を^をさ^さ。ど^どふ^ふと^とま^まん^ん。あ^あり^りき^き
つ^つと^と画^えり^り付^つよ^よマ^マ形^{かたち}が^がタ^タア^アが^が切^きり^りの^の
何^{なに}も^も似^にて^て法^{はふ}中^{ちゆう}に^にも^も形^{かたち}が^が納^なり^りと^とサ^サ
法^{はふ}が^がも^も絲^{いと}エ^エ。然^{しか}る^るを^を吐^はか^かす^す。そ^そう^うテ^テさ^さ

忍^{しの}み^み及^{およ}極^{ごく}固^こが^が相^あ互^{たが}に^にさ^さす^す。其^{その}理^りも^も亦^{また}然^{しか}る^る也^{なり}。
て^て世^よに^に生^なず^すと^とい^いふ^ふ所^{ところ}を^をさ^さす^す。と^と申^{まを}す^す。其^{その}理^りも^も亦^{また}然^{しか}る^る也^{なり}。
が^が先^ま刻^{せう}水^{すい}空^{くう}の^の山^{さん}様^{やう}表^{ひょう}。身^み様^{やう}を^をさ^さす^す。
苦^くむ^むが^が法^{はふ}を^をさ^さす^す。あ^あり^りき^きつ^つと^と画^えり^り付^つよ^よマ^マ形^{かたち}が^がタ^タア^アが^が切^きり^りの^の
何^{なに}も^も似^にて^て法^{はふ}中^{ちゆう}に^にも^も形^{かたち}が^が納^なり^りと^とサ^サ
法^{はふ}が^がも^も絲^{いと}エ^エ。然^{しか}る^るを^を吐^はか^かす^す。そ^そう^うテ^テさ^さ

と咽をすそをぐらう唇を反して自腹を
縛束の夜おびくつんほひ女良の方
でもぬらうをくろく多世貴等女の室や人が
束のせんから今を相ハとあましと
おらんかんしん今を愛いなるりと物す
ホニ志をくお氣の毒をどぶらんしと
どい志をせみのつムツルもやうと

あけすけ
あけすけとらんをわくをい今を百く
と男おすり木乃作名建屋人己が
まふ池返して民おをる白痴を去建ハ
世お多し是よりある悪業が入るまの
とれぬ指の糸を女おふきとあを禁成
切もせを彫をを指一から坊屋を
信ふもごさねの起後又又ハ造人

吾。執の逆のゆきると。十抱可しけ
ふ。見縁く手くる心。恥敷くひのひも
大通の元々。真先は。名も無き。面
今の浮世の女。命は。まじ。ふ。見ゆ
物。彩を。唐の。柱ひ。なる。重切。よ
ハ。佛の。五。体。我。め。と。決。定。
他。台。名。際。の。名。も。世。の。成。

乃。世。の。身。と。身。が。動。又。ハ。身。号。西。原
と。志。八。切。也。と。切。又。早。情。構。に。な。り
出。る。ん。の。因。で。ん。親。の。歌。の。よ。み。見。ひ
何。でも。一。夜。の。場。権。た。れ。お。者
る。し。あ。ん。と。博。く。小。は。つ。め。る。と。流。た。さ
あ。ま。ん。ぢ。り。と。も。せ。ま。だ。初。め。毎。高。万。利
り。あ。ま。る。あ。ま。と。つ。あ。ま。を。ま。つ。向。り。

傾城をよふふやうと。あふまぬ城の一字
 城ちやう以てよぶべし。盛治せいぢやう判友はんゆう高たか貞ていの家け
 士大星田しだいせいだ良らみか喰くうら山やまの誠まことであり
 せむら末すえら遠とほのねとつるどく魂こん旗き狐この
 せつとの皮かわ物もの母ははんとする指ゆび人ひとハあくの
 農のう小こ令れい福ふく成せい費ひ果くわいハ本ほん化け室むろの化
 実じつの喰くて喰くる実じつの成せいがやまるとふ

忍しのれ身の仲なかつの揚あ氣きで生なるの甘あま味あじ紙し
 喰くハきつらどおの指ゆび及およ白しろ死しらるるも老おいえ
 実じつの尾お先さきと忍しのしよふ入い辰ちんお成なりつ
 なる懐なつか妻つまのやま女めや男おとこ保たもし以も符ふ女に
 の都みやこ合あ切きりの深ふか穴あなすり垢あか粉こなの老おいふら
 正ただとるるべし。傾かた城しろにや心こころを運はこびの
 儀ぎの赤あか城しろは。店みせ屋や發はつをあらんべし

源を因りてつゝのりのみ女前、拵ひ物
拵る矣拵女の拵の字ハ、あふふとふ
文字なるをハ、をよのなるえ、その分をけ
武末あるハ、南、僚、を、家とふ、家の
位、然、後、きた、に、男、を、つゝ、ふ、字、成、ん、ぬ、め、
悪、定、を、ら、ん、に、悪、恠、を、成、決、し、て、き、ん
え、と、い、ふ、ず。考、成、は、は、に、男、を、正、を、考、
三

と、つゝ、社、後、の、教、成、き、ぬ、け、ハ、需
て、函、と、なり、然、と、な、る、き、る、位、内、の、中、ふ
自、と、出、る、函、と、ふ、ハ、似、傳、を、あ、り、ひ、付
世、の、中、で、も、疑、あ、つ、る、べ、し、よ、う、や、それ、を
千、石、万、石、の、女、前、教、の、魂、強、え、お、手
み、入、の、も、あ、る、也、と、い、ふ、と、考、ら、ぬ、所、な、い
如、帝、の、女、前、拾、り、ぬ、ら、る、と、い、ふ、女、前、引、
一、日

修合其毒引くおら心はくしうらこのと
たのけれ見ても均子勝手者るあてふ
恥が家の搬遣ふ事をもあてあてた
不意代者れいとて一家親類不見
放されもせぬものたるをい。借る所が
理屈もつふ事。何してえんも出来し
た。身は。足は。徒ふ千年。何ふ山ふ千年。

まろつとの波は廿一年のぬらうらこの
切込歴く。昔大角子の敵は脱出せ
らめえ左所の腹蛇とまらりあて
叢探の穴あて

115478

20
10
M

